

## 1 人口の現状分析

### <総人口と高齢化率>

- ・総人口は高度成長期以降、一貫して増加。2010（平成22）年時点で52,022人。
- ・高齢化率は13.2%で、国や県よりかなり低い。

### <世帯構成>

- ・単独世帯が多い
- ・3世代同居などの世帯の割合が国や県より低い。

### <合計特殊出生率>

- ・合計特殊出生率（1.55）は、国（1.38）や県（1.51）を上回る（2008～2012年）。

### <自然増減>

- ・自然増を維持
- ・人口構成が若く、出産・子育て期にある世代が比較的多い

### <社会増減>

- ・社会増を維持
- ・名古屋都市圏からの転入が多い
- ・25歳前後の若者の転出が比較的多い

## 2 将来人口推計

- ・土地区画整理事業や宅地開発等により、転入超過の時期が続き、当面の間、人口は増加していく。
- ・2035（平成47）年頃から人口増加のスピードが徐々に遅くなる。
- ・団塊ジュニア世代（40歳代）が、高齢者になり始める2040年（平成52年）年頃になると、高齢者を支える生産年齢人口の割合が低下する。

## 3 人口の将来展望

### <本市の目指すべき将来の方向>

- 人がいきいきと暮らすために、地域での役割・しごとをつくる
- 若い世代に対する妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援を実施
- 健康づくりを推進し、市民が互いに助け合い、支え合う関係づくりを構築
- 本市独自の地域資源を活かして、まちの魅力を高め、市内外との交流を促進

### ⇒キーワード

役割・しごとづくり／子育て支援／地域コミュニティ・地域福祉／観光交流

※本市の総合戦略の特徴が分かりやすい基本目標に再編しました。

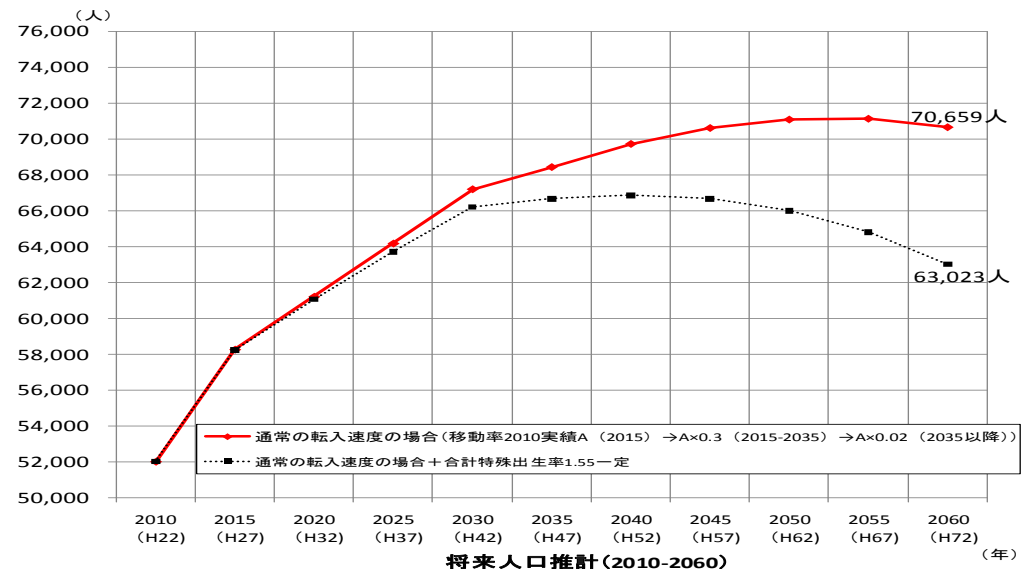
（前回、お示した基本目標：子育て支援／地域連携／福祉・健康／観光交流）

### <本市が目指す人口規模>

グラフ：赤ライン＝合計特殊出生率が上昇に転じたケース

※国の長期ビジョンの数値（2020年1.6、2030年1.8、2040年2.07）を適用

黒ライン＝合計特殊出生率が現状のまま推移したケース



⇒目指すべき将来の方向を踏まえ、総合戦略を推進し、2060年に70,000人程度の人口（赤ライン）となることを目指す。

